

ロータリー米山記念奨学委員会

ロータリー米山記念奨学委員会 統轄委員長 一柳 達朗 (入間RC)



<推進委員会>

委員長 山崎共子 (川越RC)

副委員長 新井裕喜 (羽生RC)

委員 中村重継 (行田さくらRC)

委員 武正進介 (本庄RC)

<学友委員会>

委員長 白井 威 (日高RC)

副委員長 向井宏倫 (鶴ヶ島RC)

委員 東 美栄 (狭山中央RC)

委員 岡部みゆき (坂戸さつきRC)

ロータリー米山記念奨学事業とは、全国のロータリアンからの寄付金を財源として、日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際奨学事業です。将来日本と自国、又は世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成する事が事業の使命です。日本のロータリーの父「米山梅吉氏」の功績を記念して、1952年12月、東京ロータリークラブが米山奨学制度を設立し、1954年9月には奨学生第1号としてタイから来たソムチャードさんを受け入れました。1967年7月に文部省（現・文部科学省）を主務官庁とする「財団法人ロータリー米山記念奨学会」が設立。米山奨学制度が設立されてから70年以上の歴史を持ち、財団設立から来年で60年になります。

「米山シンボルマーク」

米山のシンボルマークは「ロータリアン」と「奨学生」です。手はそうした「心」を育てるという事業創設の願いが込められています。

「世話クラブとカウンセラー」

日本には約2,200余りのロータリークラブがあります。1クラブ1人の奨学生を受入れ「世話クラブ」となり奨学生となった留学生は世話クラブの例会へ出席する事が義務付けられています。例会で奨学金をクラブ会長から受け取ります。これは米山記念奨学会独自のシステムです。原則銀行口座等への振り込みは行いません。もう一つの特徴は「カウンセラー制度」です。奨学生1人に対し世話クラブの中から1人がカウンセラーとなります。カウンセラーは奨学生個人のアドバイザーです。

2026-2027学年度の米山記念奨学生は、継続奨学生2名、新奨学生16名の合計18名です。前年度より2名の増加になりました。皆様からの温かいご支援ご寄付が形となって表れた結果です。誠にありがとうございます。

受入れ奨学生の人数は皆様からのご寄付によって2年後の受入れ奨学生の数が決まります。寄付額が多くなれば、受入れ奨学生の数も増えます。米山記念奨学委員会では皆様からの善意ある普通寄付＋特別寄付でお一人年間15,000円～20,000円のご支援をお願い致したく存じます。皆様からの寄付金増額のため、委員会として会員の皆様に米山記念奨学委員会の意義と活動を更にご理解して頂くために色々と活動に力を入れて参ります。

一年間ご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。